

## 学 位 論 文 の 要 旨

医学系専攻	保健学分野 老年保健学ユニット	氏名	佐藤 正彬
<p>題 目</p> <p>Relationship of Malnutrition During Hospitalization With Functional Recovery and Postdischarge Destination in Elderly Stroke Patients (入院中の急性期高齢脳卒中患者の低栄養状態と機能回復および退院先との関連性)</p>			
<p>要 旨</p> <p>【背景・目的】入院中の低栄養状態は脳卒中患者の機能回復や退院先に影響を及ぼすが、急性期病院入院中の脳卒中患者については十分に調査されていない。本研究の目的は、急性期高齢脳卒中患者における入院中の栄養状態の変化に関連する要因を検討すること、また、栄養状態の変化と ADL の改善、自宅退院の可否との関連性を検討することである。</p> <p>【方 法】研究デザインは後ろ向き観察研究。2010年4月から2016年9月の間に信州大学医学部附属病院に入院した65歳以上の急性期脳卒中患者205名（平均年齢77±7、女性91名）を対象とした。患者特性として、年齢、性別、家族構成、入院前の日常生活の自立度、病型（梗塞性 or 出血性）、病側（右 or 左）、脳卒中の重症度（National Institute of Health Stroke Scale；NIHSS）、嚥下障害の程度（Food Intake LEVEL Scale；FILS）、栄養状態（Geriatric Nutritional Risk Index：GNRI）、日常生活動作（Barthel Index；BI）、退院先（自宅 or 転院）を調査した。先行研究に基づき GNRI≤98を低栄養状態と定義した。退院時の GNRI から入院中の GNRI を引いた値を GNRI 変化量とし、入院中の栄養状態の変化の指標とした。入院中の栄養状態の変化に関連する要因を検討するために、患者特性を説明変数とした重回帰分析を行った。入院中の BI の改善と栄養状態との関連性を検討するために、入院中の栄養状態と患者特性を説明変数とした重回帰分析を行った。また、退院先と入院中の栄養状態との関連性を検討するために、入院中の栄養状態と患者特性を説明変数とした二項ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>【結 果】対象者205名の入院時 GNRI は101（中央値）であり退院時 GNRI は89.5であった。低栄養は、入院時に42%存在し、退院時に76%に増加した。入院時の BI は5点（中央値）であり退院時は45点であった。退院先は自宅退院が54名（26.3%）であった。入院中の栄養状態の変化に関連する要因としては、年齢（<math>\beta=-0.21</math>, <math>P&lt;0.001</math>）、梗塞性（<math>\beta=0.16</math>, <math>P=0.008</math>）、入院時の NIHSS（<math>\beta=-0.29</math>, <math>P&lt;0.001</math>）、入院時 GNRI（<math>\beta=-0.35</math>, <math>P&lt;0.001</math>）、および入院時 BI 食事（<math>\beta=0.22</math>, <math>P=0.002</math>）が抽出された。入院中の ADL 改善と入院中の GNRI 変化量との間に関連性を認めた（<math>\beta=0.26</math>, <math>P&lt;0.001</math>）。また、自宅退院と入院中の GNRI 変化量に関連性を認めた（OR=1.11, 95%CI: 1.03-1.19, <math>P=0.008</math>）。</p> <p>【結 語】急性期高齢脳卒中患者において、入院後当初から低栄養状態に陥る患者は少なくなく、多くの患者で入院中に増悪することが確認された。入院中の栄養状態の悪化は急性期高齢脳卒中患者の ADL の改善や退院先に負の影響を及ぼすため、入院中の栄養状態の変化および、今回抽出された栄養状態の変化に関連する要因について注意を払っていく必要がある。</p> <p>研究指導教員 信州大学学術研究院（保健学系）准教授 務臺 均</p>			